

# 第14回「文芸思潮」エッセイ賞 中間発表 一次・二次・三次予選

●第14回「文芸思潮」エッセイ賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国および海外から総数三四四編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る三月末日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。

無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

- ◎「墓に手錠を手向きたい」 梶木牙氣
- ◎「カエル」 田中浩司
- ◎「TGCと私」 酒井恵三
- ◎「戦争の悲劇」 岩谷隆司
- ◎「ある朝突然に」 三村耀子
- ◎「自由の謎」 せいしろう
- ◎「不器用」 九条之子
- ◎「さまよう猫たち」 高岡啓次郎
- ◎「チョコレートと涙」 池上 蓮
- ◎「うしやん、トラちゃん」 茂木けんじ
- ◎「きょうだいの縁」 キヨコさん
- ◎「押しかけ猫・我が家の場合」 好機好齡者
- ◎「恐い先生の話」 青葉 薫
- ◎「それなりに生きる」 飛田俊介
- ◎「笑顔絶やさぬ両親を偲ぶ」 新井伸一
- ◎「札幌ラーメンの思い出話」 中村行寿
- ◎「酒は微薫に止むべし、じゃ」 阿久根ケン
- ◎「泣血氈」 ゴルビー長田
- ◎「透析室へようこそ」 鎌田誠
- ◎「なくしたい、児童虐待」 清水真由美
- ◎「親子」 南條美起子
- ◎「新年の本当の始まりの刻」 灯火ほたる
- ◎「科学その功罪と人間」 有賀燈心
- ◎「台場」 瀧沢 鈴
- ◎「泥棒と祖父と」 有澤かおり
- ◎「平成最後の一月」 さとうさき
- ◎「猿の脳みそ」 林勢津子
- ◎「女の子を育てるという事」 朝川 渡
- ◎「能面アクトレス」 吉村紗菜
- ◎「サンビアの夜」 松原泰子
- ◎「平成の大震災（苔むした石碑）」 渋谷江津子
- ◎「私の場合」 文月 嵐
- ◎「幻覚の色彩―こわして、気づいたこと」 高橋和彦
- ◎「暗闇を走る足音」 喜多木常雄
- ◎「母が私を描写した」 黒川路子
- ◎「越中富山の葉売り」 木下 隆
- ◎「小さな手の想い出」 内山秀男
- ◎「郵便馬車の鈴は鳴り響いて」 菱川町子
- ◎「出逢い」 峠 佳邦
- ◎「暇つぶしと考察」 汽水実季
- ◎「私のおじいちゃん」 有利
- ◎「精神を病む」ということ 森 惇
- ◎「自転車屋ジミーちゃん」 anehako
- ◎「トイレの月」 マツイアキラ
- ◎「箱」 寿々木
- ◎「私のヒロシマ」 山崎人功
- ◎「小学生の私は、早く大人になリたかった。」 土田とも
- ◎「鍵をなくす」 阿部紘久
- ◎「日本狼と縄文人の精神性」 我妻哲男
- ◎「加生」 下元省吾
- ◎「時の氏神」 小西忠彦
- ◎「モノクロメガネ」 福丸
- ◎「田舎の母と都会に行った娘の話」 佐藤小梅
- ◎「貧乏性」 桜子
- ◎「『介護しない』という選択肢」 望月ひろこ
- ◎「血液型はジャンケンボン」 白戸 篤
- ◎「ぼっくり寺」 信濃川一平
- ◎「十六才の夏」 坂本孝恵
- ◎「天神天神甲甲甲と祈る」 本間 浩
- ◎「弟の親友、莊君」 河上美智子
- ◎「養老院」 近藤幹夫
- ◎「教師になる」 眞田 圭
- ◎「猫」 新田文男
- ◎「日・ユダヤ同祖論 論考」 伏魔殿の主
- ◎「バック・トゥ・ザ昭和三〇年代」 山本 修
- ◎「スキマのこと」 浦島智緒
- ◎「背中からの卒業」 玻璃
- ◎「認知症になった父」 イングリッシュローズ
- ◎「人生を彩る人事異動」 磯山信夫
- ◎「母への感謝状」 山口政行
- ◎「恨みに恨んだ父母との関係」 Kotoiri
- ◎「夜汽車」 銚原まさ子
- ◎「春の指標」 冬樹眞沙
- ◎「『荒城の月』フェスタ」 山野幸吉
- ◎「四十肩」 赤月宏幸
- ◎「任運騰騰」 三浦洋子
- ◎「ひとりぼっちで旅立っていった、母への懺悔」 墨島錠
- ◎「夫婦のかたち」 だいちやん
- ◎「枕飯」 高橋恵里花
- ◎「冷たい手」 牧 康子
- ◎「ルーン・カーラチャクラの鍵」 渡邊 和
- ◎「限りなく心よする人 in Georgia in America」 鎌田かをり
- ◎「初耳」 笹野 雪
- ◎「50代の自分探し」 DON'T LOOK BACK
- ◎「母の閨房」 益子龍次

## 第14回文芸思潮エッセイ賞予選通過者発表

- ◎「会えて良かった」 上杉 辰
- ◎「ものの見方」 北御門 涼
- ◎「禁句」 田上遊作
- ◎「祝！四十一・一度」 小島恒夫
- ◎「パリでの思い出」 嬉代子
- ◎「闘うプス」 加藤ゆう紀
- ◎「スポーツとメディア報道」 いっちゃん
- ◎「白日」 華央子
- ◎「機微」 五味理恵
- ◎「痛紀元後の世界」 松岡久仁子
- ◎「死の予感」 馬込太郎
- ◎「十五歳の春の友」 寒川靖子
- ◎「詫び」 齊藤はな絵
- ◎「異文化ってほんとうにあるの？」 大木独樹
- ◎「父を尊敬した日」 多良はじき
- ◎「長女に仕返し」 紙屋里子
- ◎「人形への恩返し」 ナオミ
- ◎「西郷も大久保も喜んでる」 宮島孝男
- ◎「人魚姫は発達障害」 愛甲無子
- ◎「新聞紙に包まれたお菓子」 平岡佐一郎
- ◎「結婚二年目の悪夢」 藤井典央
- ◎「失敗覚悟の結婚」 椿眞奈美
- ◎「緑は異なもの」 シンジー
- ◎「賄い隠居返上の記」 堤万里子
- ◎「オレらの運動会」 松本鈴子
- ◎「癌のバカヤロー」 倉沢辰子
- ◎「地宙人は幸せか」 奥泉 篤
- ◎「ギブミーチョコレート」 合原和晴
- ◎「鼻騒動」 安保美智子
- ◎「訳が分からなくとも、面白い」 安部としき
- ◎「食む喜び」 豊田崇久
- ◎「神猫になった『喜喜』」 横井純子
- ◎「ここにしかない風」 北 春美
- ◎「もの言う背中と一枚皮」 小林さみ子
- ◎「整形外科の病室」 早月春美
- ◎「ねえ」 金徳志津江
- ◎「ヤブもまた名医」 柴田節子
- ◎「長崎の鐘」 森千恵子
- ◎「兄のこと」 岩澤 薫
- ◎「化粧品売場の出会い」 遠藤恵美
- ◎「農作業に汗する男」 佐藤義弘
- ◎「ギャラリーにて」 岬 千鶴
- ◎「猫と私」 高谷紀久子
- ◎「ボジティブに生きる男からの教え」 須貝 誠
- ◎「ピアノ」 武中 彩
- ◎「合格祝い」 小平正市
- ◎「そのきっかけが人生の帆を大きく変えた」 星野優佳
- ◎「猫奮闘記」 河井みかこ
- ◎「弁当」 おおら利男
- ◎「いい日旅立ち」 瀬戸清子
- ◎「歪み、自分には言い聞かせる」 岸間さひろ
- ◎「初めての広島、今でも蘇る」 折乃笠公徳
- ◎「考えるな 感じろ！」 江本精
- ◎「夏の夜は」 成田英明
- ◎「六十九歳」 田中恵子
- ◎「定年後の生き甲斐」 矢口慎三
- ◎「痛み」 出口愛実
- ◎「忘れ得ぬ言葉」 服部三千
- ◎「『団塊の世代』を生きる」 熊谷一郎
- ◎「証」 東野洸惺
- ◎「『ううん、いいねえ』の意味するもの」 林 須磨
- ◎「イメーじすること」 流水音
- ◎「過ち」 池永伸二
- ◎「未知との出会い」 宮尾美明
- ◎「諦めと努力」 きなりかず
- ◎「失業にともなつて」 紀美子イエガー
- ◎「或るクリスマス」 織本一十未
- ◎「ガラスの心」 飛鳥涼子
- ◎「オリンピックの季節の後で」 大島直次
- ◎「四個のコッパン」 濱田キミ子
- ◎「パラリンピックの現状を杞憂する」 徳安利之
- ◎「母からの贈り物」 久保田鶴子
- ◎「バック・トゥ・ザ昭和三〇年代」 山本 修
- ◎「スキマのこと」 浦島智緒
- ◎「背中からの卒業」 玻璃
- ◎「認知症になった父」 イングリッシュローズ
- ◎「人生を彩る人事異動」 磯山信夫
- ◎「母への感謝状」 山口政行
- ◎「恨みに恨んだ父母との関係」 Kotoiri
- ◎「夜汽車」 銚原まさ子
- ◎「春の指標」 冬樹眞沙
- ◎「『荒城の月』フェスタ」 山野幸吉
- ◎「四十肩」 赤月宏幸
- ◎「任運騰騰」 三浦洋子
- ◎「ひとりぼっちで旅立っていった、母への懺悔」 墨島錠
- ◎「夫婦のかたち」 だいちやん
- ◎「枕飯」 高橋恵里花
- ◎「冷たい手」 牧 康子
- ◎「ルーン・カーラチャクラの鍵」 渡邊 和
- ◎「限りなく心よする人 in Georgia in America」 鎌田かをり
- ◎「初耳」 笹野 雪
- ◎「50代の自分探し」 DON'T LOOK BACK
- ◎「母の閨房」 益子龍次

- 「母の富士山」 村松佐保
- 「映画に魅せられた青春の記」 相馬 晃
- 「最期の幸せ」 金田一 淳
- 「とんでもない老後」 清月良子
- 「少年と戦争」 皆川昭夫
- 「声」 夏 熱田
- 「崩壊」 中武 寛
- 「蠟梅」 橘いずみ
- 「真夜中の並走」 灘上文彦
- 「日は終日」 冨木 稜
- 「老いの偏屈」 高橋惟文
- 「母の今昔」 前田 遊
- 「キラキラエッセイ」 元晶
- 「少年」 飯島もとめ
- 「少女は何をしていたか」 山家衛良
- 「愛への執着心と翻弄される日々」 植田遥海
- 「忘れえぬ『イエスタデイ』」 田中美晴
- 「福祉の現実」 井口寿子
- 「雪の日のマジック」 藤野なつみ
- 「また、延岡へ」 永野さくら
- 「決断」 うらやすうさぎ
- 「クリスマスローズ」 下村きよ子
- 「夢の萌芽」 佐藤勝美
- 「駅前の喫茶店」 小金丸ふみひと
- 「クリスマスの贈り物」 中原節子
- 「十六年目の『FOREVER LOVE』」 尾下健治
- 「ステンレス鋼」 小倉一純
- 「ノスタルジック・ブルー」 志津香
- 「春待つ幽霊」 折田侑駿
- 「人を変えること」 吉乃シマ
- 「冬の音『魔王』」 洪澤京子
- 「父の散髪」 プン・ブンコ
- 「小学生のシニョリッジ」 相良勇次
- 「結婚三十周年記念の指輪」 八代 穰
- 「湖のうた」 中村真知子
- 「V S 美容室」 大木寛之
- 「異文化との遭遇」 長谷川敏久
- 「生きた記憶と奇跡の日々」 蘇芳夏生
- 「場の発達障害と時の光」 賀内芳樹
- 「知らずを知る」 水野由貴
- 「父のメモ帳」 水島恵子
- 「夢」 水明
- 「DRAMATHOLOGY」 三木幸子
- 「花のある仕事」 中原節子
- 「人生を変えた一本のビデオ」 佐藤清助
- 「映画『ゲッベルスと私』」 熊谷和代
- 「特別なゲストを目指して」 柳田新奈
- 「介助、赤ちゃん、神と死者」 茂木秀之
- 「粉骨砕身」 工藤恒夫
- 「南海に散華した父」 川口正浩
- 「春がくれた贈り物」 亀山憲子
- 「カンガルー島」 星リリコ
- 「初仕事や銀座の恋の物語」 赤間尊子
- 「ドライヤーのコードが挟まれた時のことを記す文書に関する随筆」 えとう
- 「トドを殺すことは自分達を殺すこと」 北のダイバー
- 「にびいろのそら」 南沢卓郎
- 「損得感情」 三浦道朗
- 「ゴジラと天使のハンマー」 KENTARO YANO
- 「死後の人生」 滝 輝光
- 「父と子」 上野 達
- 「分らない、人、他人、自分」 小林 済
- 「夢のちょっと手前の場所」 森岸真鳴
- 「胡蝶蘭」 浜比嘉邦子
- 「幸せになりたいって何だ」 猫背の犬
- 「優しい雷」 菊池満子
- 「命のパトン」 宮地政利
- 「アンハッピーウェディング」 中江光太
- 「運を掴むには…」 柿本光一郎
- 「知らない海」 山本ワタル
- 「なくしたお財布」 高橋裕輝子
- 「神社の境内で」 山田葉月
- 「体樹」 池上結手樹
- 「テンプル家族」 水谷信子
- 「日本は本当に埼玉化するか」 宮澤鏡一
- 「継ぎゆくひと」 中村郁恵
- 「人生最初の衝撃」 荒木景子
- 「教育勅語を読んでみた」 福本彰一
- 「忘れられない味」 大木寛之
- 「医原病と自死」 幸田芳樹
- 「生き方と終い方」 一みゆき
- 「地球村『雑草園』から」 重松博昭
- 「心の相続」 坂元淳子
- 「サラリーマン気質」 武川京太
- 「知り合い以上ともだち未満」 深雪 朔
- 「偽りの仮面」 弥生
- 「ミルク」 大神田由美
- 「父の餃子」 小野寺ひろみ
- 「さくらさく」 黒崎みき
- 「わたしのハム」 森住さとり

- 「魅力ある美的指向を目指して」 大出光一
- 「K子さんのプライド」 富田真子
- 「霊は幻か実体か」 西島雅博
- 「ゴーイング マイ ウエイ」 みねさみや カトリートシ
- 「宣誓」 小林恵津子
- 「『商業捕鯨』に思う」 海輪 有
- 「カモメの水兵さん」 秋野今日子
- 「失敗は、成功の――」 鈴木正治
- 「ろうそく一本消えるまで！」 川畑和嗣
- 「限界集落」 瓜生陽子
- 「さよならの扉を閉めて……」 片山二郎
- 「ジイジとシュン」 井口海斗
- 「ポピュラー映画、どこへ行く」 井口海斗
- 「徒歩十五分、美を探す旅」 八ノ瀬葉子
- 「私と娘の『旅立ちの日』」 建内真由子
- 「コーヒーの私から紅茶の私たちへ」 房田小百合
- 「私のお義母さん」 室谷明子
- 「父」 石井良武
- 「また来ます」 此木ミツル
- 「伊勢ものがたり」 宮川桜花
- 「死ぬときは人は、何を思うか」 山崎美由紀
- 「経済至上主義の成れの果てを憂う」 佐生綾子
- 「遅れてきた葉書」 高澤宏至
- 「ピアノと困った顔の物語」 流川千里
- 「SLのお召し列車」 野宮健司
- 「四十過ぎ、コールセンターのバイトとボルノ映画館の一日」 鈴木あきら
- 「この世は不思議」 見汐麻衣
- 「拝啓、根明人間さま」 望月遥瑛
- 「二十歳の迷子」 会沢ユカ
- 「失われた尊厳」 森崎律子
- 「一〇二歳、空が青い」 丸白遊
- 「もう一つの『絆』」 澤井樹生
- 「今も変わらない生命の割の謎」 真栄田 光
- 「Mステ」 桃峯未己
- 「スーパースティ」 藤井杏子
- 「やさしくなりたい」 倉橋えん
- 「自転車でゆるやかに」 田口一行
- 「いとおいしい猫」 和田恵子
- 「今、できること」 名嘉山レイ
- 「モラルゼロ」 司波 歩
- 「お受験」 西 直人
- 「老いはそんなに悪いのですか？」 寛乃
- 「自分探しこじらせ女子」 さわりえ
- 「患者さん言行録」 谷内修三
- 「障害児の親歴一年」 三島知子
- 「幾代伯母」 青柳みすず
- 「贈り物に込める」 高岡隆一郎
- 「アザ」 下釜美和子
- 「無題」 水無月さやか
- 「あの日から 二〇一一年三月一日」 吉田宏子
- 「動物園はNo.1ってんだ、さーあ、行こう！」 大原野 悠
- 「法的後進国日本」 徳田吉映
- 「母の長い眩き」 配島彊子
- 「こちらで少々お待ちいただけますか？」 草野修一
- 「二十年後の約束」 松宮いさこ
- 「生前レクイエム」 松宮いさこ
- 「看護学生だった頃」 ひらさん
- 「豚天使」 任命」 櫻川ふみ
- 「私の愛したお医者さん」 A K K E ちゃん
- 「約束…そのあまりにも軽い響きとあまりにも重い意味」 水谷忠央
- 「私の南極ものがたり」 森岡昭
- 「二人の朋友 そして」 堀井孝雄
- 「ホットケーキ待夢」 堀外 遙
- 「私の世界、家族の世界」 果枝
- 「喫茶店客のマナー教育」 前岡光明
- 「バーバラとの一期一会」 すゝみ
- 「なぜ『聴覚障害は特殊過ぎる。』と言われるのか？」 横山典子
- 「義母の生き方」 田中 誠
- 「音楽とアイドル」 伊藤ひろき
- 「ねえ、母さん」 田代千賀子
- 「港の時代」 人間六度
- 「ワルナ ワルニ」 不破しまと
- 「そんな私はこんにやくカレー」 片桐春佳
- 「田舎暮らしの未来」 里山さくら
- 「2000キロかけて言葉を感じる」 植松宏真
- 「つながる」 山崎留美
- 「一握りの砂」 高知美貴子
- 「天恵戒驕」 荒田正信
- 「式には行かない」 鹿室歩美
- 「阿久悠となかにし礼に見るライバル関係」 弟子丸博道
- 「塵も積もれば山となる」 佐藤共子

エッセイ賞応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考基準について

●第14回「文芸思潮」エッセイ賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に対して伝わる文章になっているかどうかが最重要の基準点です。しかし書く姿勢も加味させていただきました。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢に曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきます。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありません。したがって、応募者全員が一次予選合格ということもあり得ます。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かが感じられるもの、光るものを選ばれます。何かが読み手の中に残っている作品ということになります。内容でもいいですし、文章でもいい、一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に拾い上げたとくになるといって、一つの魅力を持っているかどうかのポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの人に読んでほしいような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、だいたい雑誌に載ってもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさん作品が三次予選、さらにその上に選出される可能性もあります。

今年第14回も三次予選通過者が多く、全体としてさらに応募作品全体の水準が上がっていることを実感しております。

もっと詳しく御自分の作品への感想・批評が聞きたい方は、作品個別の「批評コメント」もご利用いただけます。どうぞ御希望をお送り下さい。

〔「文芸思潮」エッセイ賞選考委員会〕

小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

# 小説の書き方

——作家を志す人のために——

五十嵐 勉